

## 1 会員研究発表会について

### ①応募段階

- ・全地区への発送を行うので、都交換の使用を事前に伝えておく。
- ・印刷については、今年度は通常のA4紙とした。(昨年度は色付き上質紙)
- ・個人の応募はほとんどない状態なので各地区での掘り起しが必要。内容のよしあしだけでなく、若い教員の掘り起しができないだろうか。(こんな工夫をしてみた程度のもので…)

### ②発表準備段階

- ・OB、OG、役員への周知については、事務局との打ち合わせが必要だった。
- ・都研究員、都中理研究員の発表については、当面応募段階で発表を行うことに決めてもよいのではないか。個人の応募が増えた場合には、時間を短縮するなど考えていけるので。
- ・都研究員、都中理研究員は前年度のため、新年度の早いうちに打診しておくことがよい。

### ③当日

- ・OB、OGへの資料送付など、前年度のリストをもとに行ったが、事務局と打合せが必要であった。
- ・来年度は国立科学博物館が使えない可能性もある。その場合は化学会館となる。(仮予約済)
- ・PCの使用について、トラブルがあった。発表者が用意することを原則とすること、動画については埋め込まず、別に動画ファイルを用意することを徹底したい。

## 2 生徒研究発表会について

### ①応募段階

- ・今年度、発表数を各日とも原則10としたことはよかった。実際には1日目10、2日目9となった。
- ・参加地区が固定化されている点は改善したいが…。各地区での生徒研究の状況をつかみながら、新規の参加を促す。(特に研究部員が中心となってほしいが…)

### ②発表準備段階

- ・今年度は、化学会館の都合で発表に関する説明会の日程が半月早かった。これでもなんとかできたが、担当は大変だった。
- ・できれば、発表会場である化学会館で行いたい。会議室がおさえられない場合、日程の方を優先した方がよい。11月中旬の会員研究発表会後、11月末までの間に説明会を行うことがよい。
- ・日本化学会、読売新聞社とのやり取りは、今年度研究部長、相手方の担当者の変更があり、スムーズではなかった。来年度はやり取りがもう少しできると思う。
- ・賞状、盾の準備についても、費用は日本化学会だが、注文手続きはこちらなので、手間取った。来年度は、予算額等も事前に打ち合わせて、注文も早めに行きたい。
- ・メダルについては、後で、昨年度までの残りがあることに気がついた。来年度は、メダルの注文数を残部と調整して頼みたい。
- ・会場内での薬品を使ったの実演については、禁止とさせていただいたが、当日まで何回も要望され、担当が対応に大変苦慮した。会場を借りていることを考えていただきたかった。
- ・スクリーンやプロジェクターの状況もあるが、黄色の字等見づらい色調があった。濃い色で見やすい色調を選ぶように事前に伝えたい。

### ③当日

- ・新しく研究部員となった方にも手伝っていただいた点がよかったが、事前に役割分担等ができる

とさらによいと思う。しかし、実際には難しいですね。(参加できるかどうか直前まで分からないので…)

- ・ポスターセッションのパネルについては、九段中等の中村先生が保管されています。中村先生と連絡を取りながら、保管場所については検討していく。
- ・ポスターセッションの時間を10分増やし、午前の部と午後の部の時間をずらして生徒同士が発表を聞き合える時間を作る。
- ・今年度は当日の研究部員の弁当が2日目足りなくなっていました。予想以上の参加があったこと、来賓の方が急遽いらっしまったことが原因ですが、少し余裕を持って注文するようにしたい。(2日目が多いことが分かったので…)
- ・今回、HDMIケーブル(10m)が用意できたので、切り替えはスムーズにできた。(宮上中用品)都中理で買ってもよいか?
- ・当日の照明について、LED化に伴い最初明るかった。2日目の照明がちょうどよい。
- ・記録について、動画を撮影しておくこと。担当を決めておくこと。撮影に当たっては、個人情報を配慮し、後方からの固定で撮り、記録用として撮影することの了解を取る。
- ・保護者の撮影についても、特に自分の子供以外を撮影する時の配慮を、引率の先生を通じてお知らせし、当日もアナウンス等で確認する。
- ・会場内は飲食禁止であるが、ロビーについては飲み物についてはOKとする。ただし、配慮して使っていただきたいことをアナウンスする。
- ・研究部員のサービスの扱いについて、引率を伴わないため、判断は各校長となる。多くの地区で出張扱いにならないと考えられるので、昼食を用意している。(週休日なので、生徒引率を伴わないと出張にならない。また部活動ではないので特勤手当の対象にもならない)
- ・資料送付については、OB、OG、役員含めて11名の要望だった。
- ・優秀賞の賞状準備について…今年度は引継ぎがうまくいかず申し訳なかった。来年度は忘れないようにしたい。形式についても考えたい。(参加の賞状と優秀賞の賞状の2種類)
- ・化学会館での表示について、直接壁に貼ることは避ける。
- ・賞状については、発表校に対して1枚、優秀賞の学校にさらに1枚の原則を徹底したい。各区市町村の科学センターについては、別途に1枚を出すことは個別に対応する。

### 3 研究部の活動全体として

#### ①各研究発表会について

- ・この取組がメインではあるので、支障なく行うことが重要。

#### ②各地区の研究活動の掘り起し

- ・会員研究、生徒研究ともに、地区や参加者が限定されてきている。
- ・新規の参加を促すとともに、ハードルを下げることも必要か。

#### ③メーリングリストの活用

- ・日常的な授業や活動の交流を図る。
- ・初任者や若手教員が相談できる窓口。(今の都中理メーリングリストは登録人数が多く、若手教員にとっては敷居が高い。何らかの工夫が必要。)

#### ④博物館との連携について

- ・国立博物館との連携については、新たに研究部の中でプロジェクトチームを作って進めていく。
- ・当面、高等学校との間で進んでいる実践例を中学校に合わせることで、校外活動で利用することを想定して、テーマ別に見学する時のポイントや標準時間、見どころ等をまとめたプリントを作成することを考える。

先生方、1年間ありがとうございました。来年度もよろしくお願いします。